

Podcast:#25 なぜエデンの園に2本の木なのか - 2020/05/15

聖書人になりたい、カンノカズヒコとひろみです。エデンの園の中央には、善悪を知る木といのちの木という2つの木がありました。その2つだけに名前が付けられましたが、なぜこの2本が大切なのでしょう。善悪を知っているのは神のようになるからだと言われ、サタンが「あなた方は神のように善悪を知るようになる」と言い、神様も「我々に似るように善悪を知るようになった」と言います。

良いと決める、良いと宣言することは、支配する王様がしていること、つまりさばきをすることです。私はさばき主だということになります。では、いのちの木は何でしょうか。生きるという道を絶たれた、つまり神様と共にいる聖い者であるということです。汚れていない、死に汚れていないことが生きているという定義になります。

アダムは神様に似るものとして造られました。この2つの大切な神様が与えてくれる宝物を持っていることが、神様に似ているということになります。似ている者になるために、命令が与えられていたでしょう。「生めよ増えよ、地を満たせ地を従えよ」という命令です。この命令の言葉を、この2つの木の言葉で見ると、「生めよ増えよ」という方はいのち、「地を従えよ」は善と悪を知る、つまりさばく知恵ということ。支配する治める知恵ということですから、この2つの木の意味を理解して信頼し、この2つの木は神様に似るものとして人間が求めるべきもの、つまり祈りの課題です。祈ってこれが与えられる、求めないといけないことです。これが与えられるなら、自分たちは神様に似る者になる、それが造られた目的だからです。

正しいさばきをする、そして神様と共に生きる（歩む）、これが求められていることです。そのことを、神様は変わっている神様だから、木の実で食べるもので表して下さったのです。創造の6日間、そして7日目の祝福も、6日間は善悪を知る木の方、7日目はいのちの木の方ということが言えます。創造して神様は「良し」と言います。善悪を知るの善は「良し」とするの良しと同じです。そして7日目は聖とされたと言われます。清い、汚れていない、いのちの祝福の日と休みの日。6日間は善であることをさばいています。そしてそれが進んでいくと、最後にすべてが調和していることが明らかになるのです。

神様が創造している時にそうやって創造していますので、人も6日間働く、良い働きをする、良い道を歩むことによって平和を得る、生きる祝福が与えられる。男と女もこの2つかもしれませんね。実は善悪の知識の木といのちの木という枠組みで見られるんですね。男は治める責任があるということ、さばきますよね。アダムは名前を付ける働きを与えられて、そうしたらご褒美としてエバが与えられた。それはエバという名前がいのちという名前ですね。生きる者、いのちを生み出す者という名前がエバということですので、2つの木の隣に似ている2つの人が立っている。

この後、エデンの園のストーリーの後に、ずっと聖書の中でこの2つの木の実の話が枠組みになって重なって発展して出てきます。この2つのことをいつも念頭において聖書を見つめることは大切です。皆さんがよく知っている十戒、主の祈りも2つに分けることができます。レビ記と申命記、これはどちらかの命令がどちらか、ローマ人への手紙とヘブル人への手紙、福音書が4つありますが、福音書もこういう見方で分けることができます。

何を求めていかに生きるべきかということ、この2つの木で教えられています。神様を知っている、神様と共に歩む、それが知恵ですね。主と一つになる、主と共に住む、それがいのちの祝福だということです。

みことばに生きる聖書人が生まれ増えていきますように。カンノカズヒコ、ひろみでした。